

日本フィル「被災地に音楽を」

訪問コンサート レポート 第46号

被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から始まり、2019年11月末で通算293回となりました。



雄勝小中学校にて



河北新報社 6月4日朝刊掲載



雄勝ローズファクトリーガーデンにて

訪問地

- 2019年5月28日 宮城県 石巻市
二子団地西町会館 (2回)
- 5月29日 雄勝小中学校
- 5月30日 こーぷのお家石巻

訪問メンバー

- ヴァイオリン 田村昭博 加藤祐一
- ヴィオラ 佐藤玲子
- チェロ 山田智樹

宮城県石巻市での活動レポート

日本フィルはこれまで293回にわたって岩手、宮城、福島沿岸地域をめぐり、音楽を通じた支援活動を行ってまいりました。そうした中、2017年度に行った調査研究によって、被災地域におけるニーズが時とともに変化しており、震災直後に特に必要とされていた「心のケア」に加えて、「芸術文化に触れる機会」「外部との交流の機会」「被災地からの情報発信」への要望が高まっていることがわかりました。

2019年東北での最初の活動は、津波の被害が甚大だった石巻市を訪問しました。多くの方が災害公営住宅への移転を終えるなか、県内最大規模で集団移転した「二子団地」では、異なる文化をもつ住民同士のコミュニケーションをもつため、町内会によって様々な交流イベントが開かれていました。

また、初訪問の雄勝小中学校は2017年に雄勝に複数あった小学校と中学校が合併した木の温もり溢れる新しい学び舎です。澁刺とした元気いっぱいの児童生徒に対し、校長先生をはじめ先生方のきめ細かな指導が印象的でした。

今回私たちは演奏のみならず地域の方との時間を大切に、一緒に防災ワークショップを受講したり、町内会や自治体の方から今に至る様々なお話を伺いました。

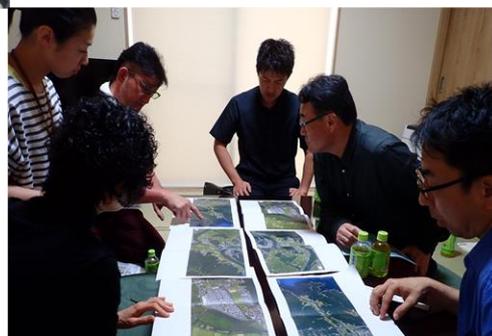
二子団地 西町会館 (5/28)

1回目 約 60 名/2 回目 約 40 名



350世帯が住まう県内最大級の集団移転の災害公営住宅の団地で、昨年訪れた百俵館のすぐ近くに位置しています。西町内会は雄勝地区から、南町は大川地区、西町は河北地区からというように3つの町内会があります。なかなか外に出られない高齢者が多く、3つの町内会をどのように機能していくか、抱える課題は多いと聞きます。この二子団地では、文化の異なる人々が同じ地域に暮らすなかで双方の交流を持とうと様々なイベントが行われています。今回日本フィルのコンサートは、全国からの支援へのお礼と復興のお祝いを兼ねた「二子団地まち開き祭」の一環として、西町会館で開かれました。他の町内会の方も来場歓迎、合同開催として同じ日に2回の実施となりました。また、このコンサートの運営にあたっては、西町内会の数名の役員の方が朝から協力してくださり、石巻市の河北支社の担当者が窓口となって調整くださいました。

(表紙の河北新報記事 参照)



雄勝町にあった複数の小中学校が1つに統合され、2017年に新校舎が開校。小学生17名、中学生15名が1つの校舎で生活しています。昨年訪問した雄勝ローズファクトリーガーデンを創設した徳水博志さんによる防災ワークショップを児童生徒とともに受けました。「津波警報10mの意味は?」「大地震のあと大川小学校のエリアに波はどのように入ってきますか?」「東京で大地震が起きたら、津波の高さは2mより低いか、高いか?」などの問いに子どもも大人も熱心に考えました。自分の命を守るためには、1津波のこと、2雄勝地区のこと、3将来どこで暮らしても身を守れるように住んでいる地域の地形を知ることが大切だと教わりました。

徳水先生をはじめ、校長先生、担当の先生方からこうしたお話を伺い、「自分の命を守ること」「生き抜くこと」を繰り返し子どもたちに伝えていっていると感じました。また演奏するだけでなく子どもたちや地域の方とともに防災について考え、ランチ・タイムを過ごすなかで、あるメンバーから「8年経ち日常に戻ってきたように見えて先生方も津波のことを話してくれるけれど、大人も深く傷ついていると感じます」との後日談もありました。私たちにできることは限られているかもしれませんが、丁寧にその地域に寄り添っていきたいと思っています。



左上：徳水先生による防災ワークショップで陸上遡上について答える生徒
 右上：弦楽四重奏での演奏でメンバーの問いかけに元気よく手を上げる子どもたち
 左下：終演後は児童生徒一人ずつから感想をいただきました
 右下：小中学校の途中にある雄勝ローズファクトリーガーデン。
 昨年は弦楽四重奏とクラリネットで訪問演奏しました。

昨年も訪問したデイサービスを行う当施設。以前は目の前の公園をはじめ、すぐ近くに仮設住宅が3棟あったといいますが、現在は1棟を除いて災害公営住宅へと移転されました。当日は開場前から十数名がお待ちになり、開演前も近くの方と久々の再会に楽しそうにお話をする姿が印象的でした。施設長さんが終演後にデイサービス利用者の方に感想を聞いてくださったので、ご紹介させていただきます。

- ①生演奏を聴く機会はなかったので、演奏を直に感じ、身体全体で感じる事ができて良かった。演奏者も近く表情まで見れて良かった。
- ②演奏を生で聴きうれしかった。迫力を感じた。
- ③知っている曲がほとんどで、「あ〜っと」なった。
自分の好きな曲が演奏されてうれしかった(上を向いて歩こう)
- ④ソーラン節や上を向いて歩こうが良かった。ヴァイオリンで聴くのがめずらしかった。
- ⑤「昴」を聴き、亡き夫と旅行中にこの曲を聴いた事を思い出し懐かしくなった。
- ⑥また、こういった機会を作ってもらえたらうれしい。

日本フィルはこれからも地域の皆さんに寄り添っていきます。



◆これまでの石巻訪問記録

- 2011年 5月10日 石巻高校(避難所)、湊小学校(避難所)、門脇中学校(避難所)、石巻中学校(避難所)、北上子育てセンターリアスホール
- 10月 5日 北上中学校、石巻専修大学(学生ホール)、あとリエDaDa、追分温泉(避難所)
- 2012年 8月 7日 北上中学校、8日同校体育館(岡崎市立城北中、あとリエDaDa、9日こ〜ぷのお家石巻)
- 2013年 3月 3日 石巻市役所(市民サロン)、4日こ〜ぷのお家石巻、女川野球場仮設住宅、5日みなと荘
- 6月23日 石巻市総合体育館
- 2014年 4月29日 こーぷのお家石巻
- 2016年11月 1日 オーリンクハウス、川の上・百俵館、2日 こーぷのお家石巻
- 2017年11月30日 鮎川小学校
- 2018年 5月23日 百俵館、24日雄勝ローズファクトリーガーデン、アトリエDaDa、25日こーぷのお家石巻

日本フィル「被災地に音楽を」は、三菱 UFJ ニコス株式会社の支援を得て行っています。